

2003年、 日本国破産

[対策編]

YEN(円)と国債が
紙クズとなる日が近づいている!?

Japanese economic doomsday is coming soon.

by Takashi Asai

浅井 隆

2003年、 日本国破産 [対策編]

YEN(円)と国債が
紙クズとなる日が近づいている!?

Japanese economic doomsday is coming soon.

by Takashi Asai

浅井 隆

第二海援隊

2003年、日本国破産〈対策編〉

2001年 5 月 7 日 初刷発行

2003年 2 月 5 日 38刷発行

著 者 浅井 隆

発行者 浅井 隆

発行所 株式会社 第二海援隊

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-11-1 駿河台サンライズビル 2 F

電話番号 03-3291-1821 F A X 番号 03-3291-1820

印刷・製本／萩原印刷株式会社

© TAKASHI ASAI

2001 ISBN 4-925041-60-6

Printed in Japan

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

ブ
ロ
ー
グ

「前門の虎、後門の狼」(趙雪航)

(前後を猛獸に囲まれた危機的狀況をさす。一つの災いを逃れたかと思うと、更にまたほかの災いに遭う。前からも後ろからも危機が襲ってくるたとえ。いまでいえば、目の前のデフレと将来の国家破産にはさまれ身動きのとれない日本の狀況)

もし、あなたが「タイムマシンに乗せて一度だけ過去のある時代に連れて行ってあげる」といわれたら、どの時代に行きたいと思うだろうか。私ならば、即座に「一九二三年のドイツ」と答える。

なぜか？

実は一九二三年のドイツでは人類史上最悪の経済的大混乱が発生していたからだ。現在の私たちから見るとちよつと信じがたい規模のインフレ（詳しいインフレ率は第一章参照）が発生し、全国民——とりわけ中産階級の財産はあつという間に紙クズとなつてしまった。目もくらむようなハイパーインフレの中でついにドイツ人たちの頭はおかしくなり、ヒトラーを求めるようになる。そしてその唯一の原因こそ、国家破産だったのだ。国家破産ほど恐ろしいものはない。

そして私たちの住む日本も当時のドイツに似た状況に突き進んでいる。私は前著〈警告編〉で、現在の日本国の全ての借金（つまり国と地方自治体と財投の三つを合わせたもの）は八〇〇兆円と書いたが、ついに財政学の専門家で政府の「顧問」も務める学者が「その額はすでに一〇〇〇兆円を超えている!!」（第三章九三ページ参照）と断言し始めたのだ。しかも彼は「破滅的状况です」とまで言い切っている。理由も明白だ。多くの経済学者も

財政学者もGDP（いまの日本でいえば五〇〇兆円）の二倍までが国家が耐えられる借金の限界だとはっきり言っているからだ。それをすでに超えてしまっているのだ。私たちを乗せた「日本丸」は一体どこへ行こうとしているのか。そして、どのような手を打てば私たちは助かることができるのか。本書〈対策編〉はそれへの解答である。

「楽観的になれるのは、グラフを逆さまに見た時ぐらいだ」

二一世紀の幕が切って落とされた二〇〇一年一月末のこと、真白い雪におおわれた厳冬のスイスアルプス山中の小さな村に全世界の政財界のトップが一堂に会した。その顔振れと陣容は先進国首脳会議・サミットをもはるかにしのぐもので、日本からは森首相（当時）だけでなく、石原東京都知事まで出席した。この集まりこそ、一部の人々から「陰の世界支配会議」とささやかれる「ダボス会議」であった。

ところが、この会議の冒頭初日からアメリカの超VIP、エリート支配層から日本の「ある問題」について重大な懸念表明と警告が相次いだ。では、その問題とは何か。それこそ、日本のすさまじい財政赤字の問題だった。

特に米金融界代表からの懸念表明が相次ぎ、中でも米大手証券ゴールドマン・サックスのカーチス副会長からは「楽観的になれるのは（日本の財政赤字の）グラフを逆さまに見た時ぐらいのものだ」と皮肉たっぷりに批評された。

よその国の彼らが危機意識をもつぐらい、いまや日本の財政赤字の問題は私たちの想像をはるかに超えて、世界経済全体の大問題となり始めているのだ。

そうした中で、いよいよ国家破産へ向けての本格的カウントダウンが始まった。ついにアメリカの格付け会社S & P（スタンダード・アンド・プアーズ）が日本国債の格付けを引き下げたのだ。「ついに」といった意味は、これまでもう一方の格付け会社の雄・ムーディーズは二回も日本国債の格付けを引き下げていたが、S & Pの方は「日本には膨大な貿易黒字と個人金融資産があるから大丈夫」として最上級ランクに据え置いていたからだ。それが二〇〇一年二月について引き下げへと動いたということは、重大なコトがいよいよ始まったことを示唆している。

さてそこで、ちょっと想像してほしい。ここに、巨大なカベがあったとする。あなたがそのカベに向かって車を運転していると思っただきたい。徐々にアクセルを踏み込んで加速していったが、そろそろブレーキをかけなければいけないのにさらにアクセルを踏

み込んでしまった。引き返し不可能地点がすでに目の前にせまっている。いま急ブレーキを踏めばまだ助かるかもしれないというその瞬間に、悪魔がフトあなたの耳もとでささやいた。「大丈夫ですよ。国債はまだあんなに売れているではありませんか。あのカベは幻想にすぎないのだから、もつとアクセルを踏み込んでごらん」。かくしてあなたはカベに激突死することとなる。いまの日本国はまさにこのような状況なのだ。

では、あなたの助かる手立てとは何か？

「二〇〇三年、日本国破産」全内容

本書〈対策編〉（第二弾）

プロローグ

第一章 一兆%のハイパーインフレ（戦前のドイツ）か、お札の紙クズ化（終戦直後の日本）か——国家破産の猛威

第二章 あなたの住んでいる町が倒産する!!

第三章 これから一体、何が起きるのか!?

第四章 生き残りの方策——どうすれば、国家破産から大切な財産と企業を守ることができるのか

エピローグ

続刊〈サバイバル編〉（第六弾）（二〇〇三年七月発刊予定）

プロローグ

第一章 ハイパーインフレの真実——サバイバルの基礎知識

第二章 日本はいつ頃本当に破産するのか——最新情報

第三章 海外ファンドを使った究極の国家破産対策——“秘伝”

第四章 日本をまともな国家に再生するための八つの方策

エピローグ

＊第三弾〈番外編〉、第四弾〈衝撃編〉、第五弾〈海外編〉も好評発売中

二〇〇〇年一二月に発刊。好評発売中。是非こちらもお読み下さい。

既刊〈警告編〉（第一弾）

プロローグ——誰もが気づかぬ間に

第一章 大いなる誤算——誰が一体悪いのか

第二章 八〇〇兆円の脅威——天文学的借金が日本経済とあなたの生活を吹き飛ばす

第三章 郵貯・年金が抱える一〇〇兆円の時限爆弾

——日本道路公団だけで二五兆円の返済不能の債務

第四章 恐慌か、ハイパーインフレか——九〇年代に行われたツケの先送り

第五章 いまや日本国は一三〇〇兆円の債務超過——ついにわかった本当の数字

エピローグ——私たちの将来に待ち受けているものは

プロローグ

「楽観的になれるのは、グラフを逆さまに見た時ぐらいだ」 4

第一章 一兆%のハイパーインフレ（戦前のドイツ）か、お札の紙クズ化

（終戦直後の日本）か—— 国家破産の猛威

通貨が本当の紙クズになる時 17

お札に裏面を刷る時間もない 22

一生分の預金封書一通の切手代よりも安くなった 26

インフレで打撃を受けるのはいつでも中産階級と頭の固い金持ち 27

年率六〇〜一二〇%のトルコのハイパーインフレ 33

日本国の財政状況はトルコとなら変わらない 39

かつて日本が体験したハイパーインフレと徳政令 40

再現！ 国家破産による徳政令 42

第二章 あなたの住んでいる町が倒産する!!

—— 地方自治体が破産する時

前代未聞の財政状況 55

町や県が破産すると起きること 57

わずか一〇年で借金が三倍になった!? 60

地銀と自治体が無理心中 65

東京都自ら「このままでは都財政は破たんする！」 68

日本の全自治体の三分の二に破産の危機 74

浮上した「三セク」問題 80

もうすぐやってくる「大増税時代」 86

第三章 これから一体、何が起きるのか!?

一〇〇〇兆を超える破滅的借金 93

第四章

生き残りの方策

——どうすれば、国家破産から大切な財産と企業を守ることができるのか

「日本無駄遣い列伝」 100

もはや戦時並みの犠牲を覚悟すべきである 107

今後を予測するために押さえるべき七つのポイント 109

悲しい現実 114

低金利が招いた国債バブル 119

国が破産すると本当に何が起きるのか 126

これが国家破産が引き起こす六つの現象 133

二〇一〇年までのタイム・スケジュール 151

宮澤財務相の重大発言 163

経済だけでなく、社会の枠組みが変わる 170

早く手を打った者の勝ち 175

生き残りのための心得 177

国家破産へ向けてのサバイバル戦略 189

「究極の国家破産対策——秘伝」を早くお知りになりたい読者の方へ

207

エピローグ

装 幀 上田晃郷

図版製作 鈴木和也（デジタルクリエイト）
写真提供 毎日新聞社